図書館だより no.262



2026（令和 8）年 11 月 19 日発行　　編集･発行　福島県立図書館
〒960-8003　福島市森合字西養山 1 番地
Tel 024-535-3218　Fax 024-536-4787　　https://www.library.fcs.ed.jp/

企画展示のご案内

「 新聞でたどる福島の150年 」

日時　令和８年 11 月６日（金）～令和８年 12 月 27 日（日）

場所　企画展示コーナー

福島県が生まれたのは、1876（明治9）年8月21日。旧福島県、磐前県、若松県の合併により、ほぼ現在と同県域の福島県が誕生しました。
今年 2026 年は、福島県誕生から150年となる節目の年です。
明治、大正、昭和、平成、そして令和へ。福島県が歩んできた 150 年を、地元新聞の報道記事でたどります。

<展示予定資料>

・「吾妻嶽破裂の模様」 福島民報 （1893 年 5 月 21 日）
・「野口英世博士の研究に又も世界的名声」 福島民報 （1927 年 5 月 21 日）
・「たゆみない足どり ふくしま100年」 福島民友 （1976 年 8 月 21 日）　　ほか

令和8年度福島県立医科大学衛生学･予防医学講座福島県立図書館連携講座**「衛生学・予防医学講演会」**

講演1 **「『小さな幸せ』を見つけよう―心の健康から考える豊かな暮らし―」**
章夢婷（しょうもうてい）先生　福島県立医科大学衛生学･予防医学講座助手

講演2 **「運動はクスリになる!―効果のある運動の方法―」**
鈴木翔（すずきかける）先生　産業保健支援サービス siesta

日時 ： **令和8年11月28日（土）15:00～16:40**（開場 14:30）
場所 ： **福島県立図書館 講堂**　　**申込不要・参加無料**



展示のご案内

・**ミニ展示【育む・育てる】** 11月6日(金)～12月27日(日)
・**ミニ展示【福島の文学】** 11月6日(金)～12月27日(日)
福島県内を舞台とした文学作品を展示します。
・<こどものへや> ミニ展示
【ふゆの絵本】　11月6日(金)～令和9年1月6日(水)
【さむい冬もたのしくすごそう！あそびの本】
11月6日(金)～令和9年1月6日(水)
※この他各種展示情報は当館ホームページをご覧ください。

♪ちいさなおはなしかい

0 歳から 3 歳のお子さんと保護者の方を対象とした、絵本の読み聞かせやわらべうたを楽しむおはなしかいです。
日時　11月27日(金)･12 月25日(金)
いずれも 11:00～11:15 頃
場所　こどものへや　えほんコーナー
※予約不要･参加無料です

＊年末年始の休館日のお知らせ＊

令和８年 12 月 28 日（月）～令和９年 1 月４日（月）は、年末年始のため休館いたします。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、おすすめの新着資料を紹介します。

人文・社会・自然

『はじめての文語短歌』髙良真実/著　左右社
2026.7　911.107/ﾀﾀ 267

現代では詩歌や小説で文学的・芸術的な手法の一種として使用されている文語体。文語体は、明治期から昭和初期までは公文書でも使用されていた文体です。本書は、文語体の基本的な用法を解説し、文語体が用いられている短歌「文語短歌」の楽しみ方を紹介しています。見様見真似で文語体を使いながら、短歌の味わいを深める実践的な入門書です。

『ノマドという生き方　旅暮らしの人類学』
左地亮子/著　世界思想社　2026.6　382.35/ｻﾘ266

キャンピングトレーラーで移動生活を続けるフランスのジプシー「マヌーシュ」。著者は長年にわたる調査を通じて、「なぜ定住するのか」という問いを私たちに提示します。ひとつの土地や関係性に縛られず、複数の居場所をゆるやかにつなぎながら生きる彼らの生存戦略は、不確実な時代を生きる私たちに「別様の生き方」の可能性を教えてくれます。現代社会の窮屈さを解きほぐすヒントに満ちた一冊です。

『猫が世界を救う　人を魅了する不思議な力から、医学への貢献まで』
宮沢孝幸/著　PHP研究所　2026.7　645.7/ﾐﾀ267

私たちの生活のそばにそっと寄り添っている猫という生き物。古くは、文明の最初の時期から人間とともにいました。そんな猫のルーツや生態、歩んできた歴史をたどり、また科学の視点からも猫を見つめた本書は、かわいいだけではない、新たな猫の魅力にいざなわれる一冊です。

児童・児童図書研究

『絵本と子どもと歩いた日々』山脇百合子/作
のら書店編集部/編　のら書店　2026.3　J726.6/ﾔ

山脇（旧姓・大村）百合子さんは、こどもの本の画家です。デビュー作の童話『いやいやえん』や絵本『ぐりとぐら』シリーズでは、実姉・中川李枝子さんがお話を書き、百合子さんが絵を描いています。

この本は、百合子さんの人柄が伝わってくるエッセイ集です。幼少期の思い出、絵の仕事に対する姿勢、子育てへの想いなどが、軽やかな文章で綴られており、愛らしい挿絵も添えられています。百合子さんは、東京で生まれたのち、子ども時代の一時期を福島で過ごしました。その頃を振り返ったエピソードも語られています。また、百合子さんの作品では、服を着て二本足で歩く動物たちの姿がおなじみですが、描くにあたって必ず本物の動物を写生し、写生できない動物は描かないのだそうです。巻末には、娘の祐子さんが、百合子さんについて書いた文章も掲載されています。

雑誌・新聞

AI の利活用に関する特集記事のある雑誌を紹介します。

『現代思想』 青土社
(第 54 巻第 14 号, 2026 年 11 月号)　Z105/G1

特集「フィジカルAIとロボティクスの思想」

『ジュリスト』有斐閣
(No.1629, 2026 年 11 月)　Z320.5/J1

特集「AI利活用における「民事責任」を考える」

『Newton』ニュートンプレス
(第 46 巻第 11 号, 通巻 544 号, 2026.11 月号)
Z405/N1

特集「AI超進化」

『エネルギーレビュー』エネルギーレビューセンター
(第 46 巻第 11 号, 通巻 550 号, 2026 年 11 月号)
Z501.6/E6

特集「原子力分野でのAI活用」

地域

『そのシカ、どこから来たと思います?』兼子伸吾/著
緑書房　2026.6　LA489.8/K1/1

日本各地のシカの遺伝子を調べると、驚きの事実が見えてきました！「奈良公園のシカはいつからあそこにいるの？」といった疑問の数々を、やさしい書きぶりで解説してくれる一冊です。個体数の増加に悩んでいた南会津町からの依頼で同地のシカの DNA を調べはじめ、気が付けば全国のシカを調査することになった福島大学・兼子教授のユニークな来歴も語られています。

『昭和30年代～50年代の地方私鉄を歩く　第5巻
みちのくの鉄道　その3』高井薫平/編・著
フォト・パブリッシング　2026.7　L686.2/T4/2

昭和 30 年代から 50 年代にかけて存在した、私鉄の車両の記録写真を集めたシリーズ（全 32 巻予定）の宮城県・福島県収録巻です。福島県からは、福島交通鉄道線（飯坂線・飯坂東線）、日本硫黄沼尻鉄道部の写真が掲載されているほか、信達軌道、日本硫黄耶麻軌道部時代の絵葉書や、吉田初三郎鳥瞰図、福島交通、日本硫黄（沼尻鉄道）の乗車券の写真等も収録されています。当時の雰囲気を感じることができる一冊です。

